



当たり前じゃない、 やさしさ

大阪府立工芸高等学校

3年

おち あい

はる な

落合 春奈

私が調査をした場所は、地下鉄御堂筋線の淀屋橋駅です。大学の通学に使おうと考えているこの駅がどのような駅なのか気になったので選びました。

まず目を留めたのは電車とホームの間に隙間や段差がほぼ無いことです。足が不自由な方や目が不自由な方も安全にスムーズに利用出来るようになっていきます。実際に車いすを利用されている方がいて、降車時も乗車時も駅員さんが折りたたみ式スロープを電車とホームの間に置いて安全に利用できるようになっているのを見ました。車いすを利用されている方が笑顔で『ありがとう』と感謝を伝え、駅員さんも笑顔で『どういたしまして』と返している姿に心が温まりました。

次に注目したのは可動式ホーム柵です。ホームからの転落事故や、列車との接触事故を防止するために設置されたもので、これのおかげで私たちの身の安全が守られているんだと感じました。

電車を降りて歩くと、視覚障がい者用点字ブロックが地面に続いていました。辿ると地下鉄出入口から地下ホームの乗降口まで、点字誘導ブロックによって導線の誘導をしていました。これで目が不自由な方も安心して移動できると思います。

構内を一周してみると、階段を使わずにエスカレーターやエレベーターだけで地上からホームまでを移動することが出来ることわかりました。足が不自由で階段を利用出来ない方も移動しやすいように考えられています。階段には二段手すりが高齢者の方が利用しや

すいようになっていたり、点字案内は目が不自由な方がどこへ向かえるのかが分かるようになっていました。

改札へ向かう途中でトイレ案内の音声がかえりました。天井に音声機械が取り付けられており、そのすぐ下には点字トイレ案内図がありました。

バリアフリートイレが気になって見てみると、トイレのドアには取っ手が着いていません。なんとボタン式で開閉できるドアになっており、車いすを利用される方でも一人でドアを開閉できるようになっていてとても便利だと思いました。

改札には一つだけ幅が広い改札機がありました。幅広改札機と言って、通路幅を広くして車いすを利用される方や大きい荷物を持つ方でもスムーズに通ることができるようになっています。切符売り場には車椅子を利用される方も操作しやすい高さの券売機と、目の不自由な方も利用できるように点字運賃表がありました。

見えないところで私たちをより安全に、安心に過ごせるようにバリアフリーは進化し続けているのだと感じました。これは当たり前ではなく、ひとつでも問題を解決しようというやさしい方々の考えのもとで成り立っているのだと考えます。しかし、私が一番バリアフリーに寄り添えるもの考えるのは人のやさしさです。困っている人がいれば迷わずにスッと手を差し伸べることのできる人になりたいです。皆が笑顔で幸せな気持ちになることのできる社会になればいいと思います。



写真1



写真2

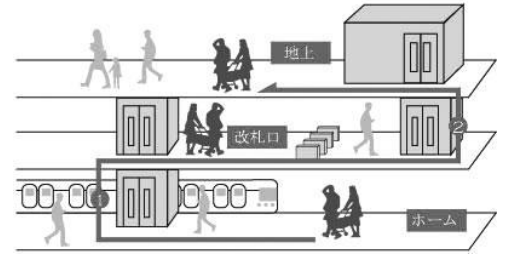


写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9



写真10



写真11